COC事業ニュースレター

神戸市看護大学 KOBE CITY COLLEGE OF NURSING　文部科学省 地(知)の拠点

地域住民と
共に学び、共に創る
コミュニティケアの
拠点づくり

市看×いちかん ちいき通信

2015年 春号

2015年3月10日 発行

“いちかん”（い）一緒に、（ち）地域つくりについて、（かん）考える をコンセプトにしています。

今号の内容

P1. ・平成26年度COC事業の振り返り
・COCコラボ教育ピックアップ
P2～3. COCフォーラム
・地域の顔（菅の台地区 大角喜一さん）
・行政の地域つくり・健康つくり（須磨区保健福祉部 谷真行さん）
・コラボ教育での学び（編入4年生 三浦麻美）
・COC研究ひろば 第２回（老年看護学 清水昌美）
P4. 活動予定

平成26年度COC事業の振り返り

神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター運営委員長 石原逸子

平成26年度に2年目をむかえたCOC事業は、「地域住民の皆様と共に創るコミュニティケアの拠点づくり」をめざし、北須磨地域の地域福祉センターを中心にコラボ教育を実施しました。

COCコラボ教育の授業科目で一番大きな学外演習は、基礎看護学技術演習Ⅲ（以下技術学演習Ⅲ）です。当初より、95名の学生を学外演習させることについて地域の受け入れキャパシティはどうか？という懸念はありましたが、日頃より地域福祉センターで地域の活性化を目指していらっしゃる民生・児童委員の方々のご協力いただき、1グループ8名に分かれ、12回、2つの地域福祉センターでヘルスインタビューと健康測定を実施する運びとなりました。その結果、北須磨の2地区で延べ253名の住民の方々が教育ボランティアとして本学の教育に参加・ご協力いただけました。

技術学演習Ⅲは、住民の方々の暮らしを健康の観点から理解することを目的としています。住民の方々は、自分たちにより近い存在である2年生の学生たちに気軽に質問を投げかけ見守る態度で接して下さいました。一方、学生たちは、このような住民の方々とのやり取りを通じて初めて課題達成だけを目指していた自身の態度に気づき、住民の方々のニーズは別にあることを知り、看護とは何をする人なのかを学ぶ機会を与えられました。このようなコラボ教育の学びを皮切りに、より地域での暮らしを意識した看護の実践について学べる機会を3年生、4年生の実習ではCOC科目として準備しています。

本事業では、知識や技術力を高めれば高めるほど市井の人から遠ざかる専門職者ではなく、地域の人々の暮らしを常に思い起こせる看護人材の育成を目指しています。その為には、来年度も学外でのコラボ教育を本年度以上に充実させ、学生たちがより住民の方々の気持ちに気づけるような環境づくりに努力したいと思っています。

COCコラボ教育ピックアップ～2014年冬「健康生活支援学実習」～

健康生活支援学実習は、地域の人々の生活を理解し、健康な生活を支援する能力を育成することを目的とし、平成19年度より実施されています。9月に病院での「基礎看護学実習」を経験した2年生が、ここでは小グループに分かれ地域に出向き、地区の特性を知る「地区探索」を行ったり、「教育ボランティア」としてご登録いただいた住民の方を訪問し、健康や暮らしに関するインタビューを行います。これまで西区で実施していた実習を今年度よりCOC事業の開始にともない、須磨区竜が台地区、菅の台地区においても実施しました。写真は須磨区において地区探索をしている様子です。自分たちの住んでいる地域以外の場所を実際に歩き、見て、聞いて、五感を通して知ることにより、COC事業が目指す「地域の暮らしを理解できる看護師像」に大きく近づいたのではないでしょうか。

（神戸市看護大学 地域連携教育･研究センター准教授 相原洋子）